

京都教区時報

カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

2023年 司教年頭書簡
 「コロナ時代を生きる信仰」
 「わたしのシノダリティを創ろう」
 を受けて



第9回 わたしは真に イエスと共に生きているだろうか

年間第14主日の『聖書と典礼』のコラムに、次のようにありました。

『シノドス』とは、まさにイエス・キリストと親しく生きていくかどうかという本筋を見極めるという意味で『識別』の機会です。(サレジオ修道会司祭 阿部仲麻呂)

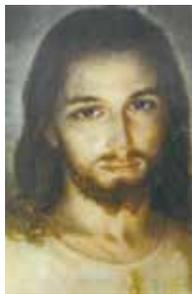
先に愛したのは神です

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる」(マタイ28・20)と言われる神の子イエスは、人となって、わたしたちと同じように、母親から生まれ、家族の育みの中で、学び、働き、神からも人からも愛されながら成長していきました。そうやって、わたしたちの成長の歩みを共にしてください。

また十字架の死を通して、わたしたちの死をも共に歩みます。十字架の死、最も屈辱的な、不当な死の判決さえも甘んじ受けて、どんなみじめな死を通らなければならぬ人の死にも寄り添います。そして、今、復活したイエスは、時空を超えて、いつでもどこでも、誰の人生にも寄り添いながら、共に歩み続けてくださっています。

「イエス」の名の由来

天使から「その子をイエスと名付けなさい」(マタイ1・21、ルカ1・31)と言われた、その名の由来は、出エジプトの出来



いつくしみのイエス
お顔部分

事まで遡ります。奴隷とされた民の苦しみから、脱出へと導かれる神は、「わたしはある。わたしはあるという者だ」(出エジプト記3・14)と名乗られました。

その意味について、現代の研究者たちは、「ある」という言葉には、「あらせる」という意味も含まれることを加味して、「わたしはあなたに存在を与えながら、あなたの人生に深くかかわって共に在るもの」と言います。それは、同じ章の中で、モーセに言われた、「わたしは必ずあなたと共にいる」(同3・12)に通じるといわれます。「わたしはある」のヘブライ語三人称は「ヤハウェ」で、「イエス」とは、「ヤハウェが、救う」という意味です。イエスは、「わたしたちに存在を与えながら、わたしたちの人生に深くかかわって共に在るお方が、救う」出来事そのものなのです。

今、「共におられる『イエス』と、真実に共にあるわたしであるか」を識別する時です。

カルメル修道会司祭 中川博道

*参照



2023 ワールドユースデー リスボン大会



ワールドユースデー（WYD）リスボン大会が、8月1日から6日までポルトガルの首都リスボンにて開催されました。大会テーマは「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」（ルカ1・39）。聖母マリアは、神にただ「はい」といって受け入れるよう、わたしたちにキリスト者の通る旅路の模範的なあり方を示しています。

日本からは、司教3名と同伴者を含めて101名の巡礼団が参加し、京都教区からは、5名の青年と2名の司祭が参加の恵みにあずかりました（7月26日発、8月9日着）。

早速、大きな体験を分かち合ってもらいました。

WYDに行くって何？

ホン・ユンハク神父

WYDを準備しながら感じた私の感情は恐怖でした。すべてが不慣れた環境で、初めて経験する信仰の旅程に対する恐怖があまりにも大きかったです。このような恐怖を持ってWYD旅程の第一歩を始めました。

それでも「京都教区の青年たちと時を共にする」と思って、少しはその恐怖を振り払おうとしました。しかし羽田空港で、京都教区の青年たちと共に過ごすグループではなく、初めて会う青年たちとのグループでWYDの期間を過ごすという知らせを聞いて、その恐れはさらに大きくなりました。「どうすれば私はこの若者たちと一緒に神様に会えるのだろうか」、「どうすればうまくやれるのだろうか」。

本大会が始まる前にコインブラ教区で過ごした時間は、私にとって少し残念な気持ちとして残りました。他の青年たちと一緒に時間を過ごしましたが、私は本部に割り当てられてホームステイではなく、毎日の日程を確認して調整しながら過ごしたからです。しかし、この時間もやは



7月27日～31日「教区の日々」が行われたコインブラの街

り残念さと共に満足の時間でもありました。なぜなら、毎晩本部の司祭たちが「どうすれば青年たちがもう少し意義深い時間を過ごせるだろうか」、「どうすれば青年たちがもっと多くの体験ができるだろうか」と悩みながら交わした時間によって、本大会でグループをよりよく世話ができ、計画的な旅程を過ごすことができたからです。

リスボンでの本大会は、コインブラ教区の日程より体力的にもっと大変で、より多くのことを黙想して考えさせる時間でした。本格的にグループと共にする旅程で、恐怖を乗り越えなければならぬ時間でした。そして時間が経つにつれて、恐怖が新しい喜びに変わるのを感じることもできました。教区の青年たちが互いに準備し、一緒に交わした3日間のライズアップ。教皇様の歓迎式、教皇様と共にする十字架の道行き、徹夜の祈りと野宿、閉会ミサまで休む暇もなく続く強行軍と暑い天気、疲れてしまう青年たちが増えつつあります。一緒に参加できない残念さと申し訳ない気持ちに涙を流す青年たちを見ながら、もう一度その熱い信仰に感動するようになりました。

率直に言って、今まで韓国の教会の青年たちとの関わりをたくさん経験した私にとって、日本の教会の青年たちは本当に熱心な青年たちは多くないという考えがありました。しかし、WYDで出会っ

た日本の教会の青年たちは、世界で最も信仰深い青年たちでした。本当に素直に神様を愛し、イエス様に従い、何よりも信仰に飢えている青年たちでした。

閉会ミサのために徒歩巡礼を準備するグループの青年たちに「私たち今まで毎日平均2万5千歩を歩きました。もう8km歩きます。大丈夫ですか、辛くないですか」と聞くと、予想外の答えが返ってきました。「イエス様に会いに行くのに何が大変ですか。幸せです。神父様は大変ですか」。一瞬、すごく恥ずかしくなりました。私が大変だから、青年たちに言い訳をしながら合理化をさせようとした自らの姿を発見することになりました。歩いて歩いて野宿場に到着し、若者たちと一緒に最後の夜を過ごしました。

WYDの最後の旅路である閉会ミサ。公式参加者だけで35万人。一緒にミサに参加した地域の信者まで合わせると約150万人。ミサを共同司式した司祭だけで1万人。住む地域が異なり、言語が異なり、年齢も異なりますが、イエス・キリストという名によって集まった人々。ミサを捧げながら、司祭たちが共同で唱える部分を韓国語で唱える時、思わず涙が流れました。なぜか分かりませんが、ただずっと涙が流れました。御聖体をいただき座っていると、一瞬「これが一つのパンを食べ、一つの杯を飲み、一緒に分かち合う一つの信仰共同体だ」と思いました。説教の時や信者たちと話をしている時、

数え切れないほど話した言葉ですが、直接的に体験したことがなかった私にとって、この信仰体験は一生ものの信仰体験になりました。

WYDが終わって羽田空港で、私と一緒に同じグループで生活していたある青年がこう言いました。「私と一生の信仰体験を共にしてくださってありがとうございます」と。

7月26日から8月9日までのWYDに行ってきた、本場にいろいろなことを考えるようになりました。今回のテーマ「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」。最初は若者たちに何を話した

いのか分からなかったのですが、ゆっくり、でもはつきりとその意味が分かりました。

初対面の気まずさも瞬間。すべてのプログラムに嬉しい気持ちで急いでイエス様に会いに出かける青年たちの姿。しほしの躊躇もなく旅立つ巡礼の旅路。WYDは信仰人として、すべての人々にすべての者となったイエス・キリストに会いに出かける旅路でした。

私の初めてのWYD旅程は不安とときめきで始まり、充満で終わりました。振り返ってみると、司祭としてあまりにも多くの不足を感じた時間であり、その不足の中ですべてを満たしてくださる神様の現存を感じることができた時間でした。京都教区の愛する皆さん、神様は私たちをいつも待っておられます。嬉しい知らせのために、急いで出かけることをお望みになります。神様の愛を心に秘めて、聖母マリアと一緒に外かけて、急いで神様に向かいましょう。

WYD2023に参加して

河原町教会 平野慶孝

今大会の大まかなスケジュールは、7月27日から31日に「教区の日々」があり、8月1日から6日に「本大会」、その後「振り返り巡礼」を行うというものでした。「教区の日々」ではコインブラ教区で過ごしました。活動の拠点となったのは、サント・アントーニオ・ドス・オリヴァ



7月31日「本大会」に向けてコインブラからリスボンへ移動 途中でファティマ巡礼 聖母ファティマ聖堂

イス教会で、聖アントニオがフランシスコ会士として働いていた教会です。私は教会のすぐ近くに住んでいるイタリア人夫婦の家でホームステイさせていただきました。私ともう一人神学生を受け入れてくれたのは素晴らしい人達で、何一つ不自由なく、初めての海外で心から安心して過ごすことができました。「教区の日々」では海外の若者主催のカテケジスやユースフェスティバルに参加し、聖母ファティマ聖堂を訪れ、「本大会」が行われるリスボンに、現地時間の7月31日の夜、順調に到着しました。

私は、日本ではカトリックにとつての当たり前が、違和感なく受け入れられることが少ないと思っています。カトリック信者の少なさを考えると当たり前なのかもしれません、ポルトガルというカ



「本大会」は8月1日～6日
パパさまに会えた人はラッキー

トリック人口が90%を超える国へきて、その差に驚きました。駐車している車の中にはロザリオが架けてあり、日曜日が定休日の店が多く、聖品の専門店ではないスーパーのようところで、ロザリオや像が販売されていました。

8月1日早朝、体に異常を感じ、熱を測ると38度以上、記念式典に参加できなくなりました。現地の学校の体育館で1泊過ごした翌朝、私を含め4人の体調不良者が出たため、近くの教会へ隔離されることになり、私は本大会終了の8月6日までそこにお世話になることとなりました。教会のボランティアスタッフは年齢層もバラバラで言葉は通じませんでしたが、私たちがWYDに復帰できるように手助けしてくれました。ミールクーポンが使用できない時は食事を用意し、喉を傷めている人にはうがい薬やのど飴をわたし、熱がある人には解熱剤などを飲ませ、水を補充し、寝床を用意してくれました。

今大会で教皇フランシスコは言いました。「立ち上がる手助けをしましょう。人を唯一上から見ているときは、立ち上がる助けをするときです」。2019年に来日された際にも、同様のことを若者に向けて言われていました。まさにそれを実践していた素晴らしい人達に会えたことだけでも、このWYDに参加した意義があったと私は思います。残念ながら「本大会」はYouTubeを通してリモー



8月6日 教皇主司式派遣ミサ
祭壇は、はるかかなた 司祭席より撮影

トでの参加となってしまうましたが、貴重な経験を積むことができました。

私も倒れた人が立ち上がれるように、手助けをできるような人間になりたいと思います。ただし、教皇フランシスコが「愛のように見えるエゴイズムに気をつけてください」と言われたように、それがエゴイズムになってしまわないように気をつけ、愛を持って隣人と関わり合いながら、日々を過ごしていきたいと思いません。

ワールドユースデーでの交流
西陣教会 河合理菜
今回の渡航が私にとって初めてのヨー

ロッパ、ポルトガル、そしてワールドユースデーでした。現地でのプログラム中は、慣れない環境で戸惑いや不便さを感じたこともありましたが、毎日が充実しており、とても楽しい日々を過ごしていました。

日本に帰ってきて、自分の行動を振り返り、私は自分がWYDに参加した理由を思い出しました。それは「同じカトリックという信仰を持った青年たちと交流したい」というものでした。私はこのWYD中、周りにいる人々が同じカトリック信者だと感じる場面がいくつももあり、私の目的はしっかり達成されていたことに気がつきました。

一つは、同じ日本巡礼団の青年との関わりの中で感じました。青年たちと会話をしていると、自然と「自分の教会に子どもとか青年、どれくらいいる？」や「今教会でこんなことをやっているんだけど：」という話になりました。普段の何気ない会話に、このような話題が出ていることに自分でも驚きました。私は今まで、ほとんど京都教区の青年としか関わりがなく、同じ教区ならばどこからか情報が入ってくるので、わざわざそのような話をしたことがなかったからです。他教区の青年と自分の教会について話をするのはとても新鮮でした。日曜学校を担当している人がいたり、小学生キャンプの総括をしている人がいたり、また教会の名前になっている聖人がどんな人なの



教皇ミサの祭壇は、川を挟んだ遠い所にあったため、スクリーンでミサに与った青年もいました

かなど、年齢が近く同じカトリック信者だからこそできる話題で、嬉しさを感じました。そして、その「同じ信仰を持っているんだ」という思いが、異国の地に不安定なスケジュールの中で生活するという状況でも、日本人同士の結束力を高めてくれました。

もう一つは、外国人巡礼者との関わりで感じました。本大会のあったリスボンに到着すると、それまでとは比にならないくらいに、本当に人が多く、いろいろな国からの巡礼者がいました。同じWYDの参加者カードを身に付けている人とすれ違くと「OLA!」と声を掛け合い、時にはお互いの国のお土産を物々交換しました。外国人巡礼団には、楽器を鳴らし歌を歌いながら道を歩いている人も多く、その音が聞こえてくると、歩き疲れ

ても気分が高鳴りました。特にヨーロッパの青年はいつでもどこでも歌っていて、とても賑やかだという印象を受けましたが、ミサの最中は静かでした。当たり前のことだと思われるかもしれませんが、日本との文化の違いに直面していた私にとっては、同じ時に同じ気持ちで同じ沈黙を過ごしたのは、「同じ信仰」を感じた瞬間でした。

私は今回のWYDで、文章には書ききれないほどの様々な経験をさせていただきました。ここで体験したことを自分の糧とし、また周りの人にも伝えて、これからの人生をより実りあるものになりたいと思います。

最後に、共に2週間を過ごしてくれた公式日本巡礼団の皆様、WYDに関わってくださった全ての皆様、私たちのためにお祈りしてくださった皆様、本当にありがとうございます。



京都教区巡礼団

比叡山宗教サミット36周年
「世界平和祈りの集い」開催
8月4日 比叡山

「神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください」。アッシジのフランシスコの「平和を求める祈り」は皆さまもご存じだと思います。

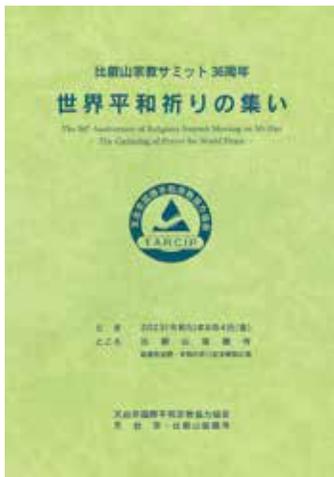
教皇ヨハネ・パウロⅡ世の呼びかけによって、フランシスコゆかりの地、イタリア中部のアッシジにおいて、1986年10月に「世界平和の祈りの集い」が開催されました。

諸宗教の対話と協力を注がれたローマ教皇ヨハネ・パウロⅡ世聖下の提唱により、1986年10月に世界の諸宗教指導者がイタリアの聖地アッシジに集い、それぞれの宗教儀礼で、世界平和を希求する祈りを捧げました。この集いに参加した第253世天台座主山田恵諦^{ごま}下は、『アッシジの精神』を引き継ぎ、日本においても世界平和祈りの集いを執り行うことを世界の宗教者に提言いたしました。日本のさまざまな宗教者もそれぞれの立場で世界平和のための運動を展開しており、宗派を越えたご賛同をいただき、日

本宗教代表者会議が主催者となり、1987年8月3日、4日の両日、比叡山山頂にて「比叡山宗教サミット」世界宗教者平和の祈りの集い」が開催され、世界の諸宗教代表者と共に世界の平和を祈ることができました。
(比叡山宗教サミット36周年『世界平和祈りの集い』開催趣旨より抜粋)

1987年の第1回の集い以来、毎年「平和の祈り」は続けられ、今年で36周年となりました。大塚喜直司教によって、ローマ教皇庁諸宗教対話省長官ミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット枢機卿の平和メッセージが代読されました。

真の平和を望む心は、どの宗教を信じている人にとっても同じです。この世界に真の平和が訪れるよう、宗教の垣根を超え、心を合わせて祈り続けたいと思います。



「比叡山宗教サミット」YouTube より

「比叡山宗教サミット」のウェブサイトで、過去の資料や動画などを見ることができます。↓



唐崎メリノールハウス・唐崎祈りの家のご案内

京都司教区は、メリノール宣教会より唐崎メリノールハウスを、ノートルダム教育修道女会より唐崎祈りの家の運営を引き継ぎました。今後も信徒の養成の場として、皆さまに広く活用していただければ幸いです。

唐崎メリノールハウスは、練成会や修養会、また教会学校の活動のために、唐崎祈りの家は、個人黙想や教会で企画された黙想会、祈りの集い、研修会等のためにご利用いただければと思います。また今後、唐崎祈りの家の企画として、奉献生活者のため、また信徒のための黙想会を予定しています。

皆さまが気持ちよくご利用いただけますように、唐崎メリノールハウス・唐崎祈りの家のスタッフ一同、心を込めて努めてまいります。お申し込み、お問い合わせは、下記のメールにお願いします。皆さまのご利用をお待ちしております。



*なお、唐崎メリノールハウスは、改修工事のため10月から年末まで閉館します。

■申込・問合せ メールでご連絡ください。

E-mail : karasaki_maryknollhouse@kyoto.catholic.jp

■所在地

唐崎メリノールハウス 滋賀県大津市唐崎1丁目4-1

唐崎祈りの家 滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

■アクセス

J R 京都駅→唐崎駅(約15分) 駅から徒歩約11分



唐崎祈りの家の聖堂

YES 2023

青年の皆さん！ 今年もYESやります！

YESとは、Y=Youth、E=Enjoy・Encounter・Exchange・Etc...、S=Spaceの略で、京都教区の青年が、「年に一度、気楽に集まろう！」ということで計画されたイベントです。今回は、久しぶりの宿泊イベントです！

2日間を通して、青年同士が今まで以上に仲を深め、つながりを感じることができるよう、スタッフ一同準備に励んでおります♪

詳細につきましては、青年センターのHPにてお知らせいたしますのでご確認ください！



写真は昨年西院教会にて開催されたYES2022の様子です。

つながりネットワーク 聖めようコミュニケーション

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について、京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

青年センターあんでな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。
右記のQRコードからも確認できます。



お知らせ

教 区

正義と平和協議会

現地学習会「四日市公害と環境未来館・四日市教会を訪ねる」

日時：10月9日(日) 集合京都駅 8:00

参加費：3000円(当日徴収)

昼食各自持参

定員：20名(先着順)

申込：Tel 075-366-6609 Fax 075-366-6679

seiheiky@kyoto.catholic.jp



聖書委員会

オンライン聖書講座

ともに歩んでくださる神

—シノダリティの心をもとめて—

第9回「主との交わり(アガペ)を通して」

10月5日から3か月配信

講師：Sr.山本久美子(聖ヨゼフ修道会)

第10回「神の愛と恵みに満たされて」

10月19日から3か月配信

講師：澤田豊成神父(聖パウロ修道会)

要申込、有料

広報委員会

教区時報12月号の原稿締切日は10月23日(日)です。

メールにてご連絡ください

honbu@kyoto.catholic.jp



修 道 会

聖ドミニコ女子修道会

青年のための半日黙想

日 時：11月3日(金) 13:30~16:30

(受付13:00)

テーマ：「平和をもたらすことを求めよう」

講 師：エミリオ神父

(滋賀ブロック担当司祭・グァダルペ会)

場 所：聖ドミニコ女子修道会京都修道院

京都市上京区河原町通今出川下る梶井町448

対 象：青年男女(18~40歳)

参加費：500円(学生300円)

申 込：メール kyoto@dominic.or.jp

Fax 075-222-2573

申込締切：10月28日

諸 団 体

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話ミサと黙想会

日時：10月17日(日) 10:30 受付11:00~15:00

内容：菅原友明神父による講話

柳本昭神父司式による手話ミサなど

場所：ヌヴェール愛徳修道会本部修道院

京都市伏見区深草田谷町3

参加費：1500円(昼食・飲み物は各自持参)

申込締切：10月10日(日)

申込・問合せ：Tel・Fax：075-723-1135 傳 裕子

京都カトリック混声合唱団

聖歌練習 10月8日(日) 14:00

10月28日(日) 17:30 18:30 ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練習：10月12日(日) 10:00 26日(日) 10:00

河原町教会 2階楽廊

問合せ：075-561-5971 駒井和子

心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)

KBS京都 (日)~(金) 朝5:55

(土) 朝5:15

ラジオ関西 (日)~(金) 朝5:00

(日) 朝6:05

毎日放送 (日)~(金) 朝5:45

(土) 朝4:55

10月のテーマ「導かれて」



京都カナの会よりお知らせ

京都カナの会は、2023年
8月1日付けで、解散いたしました。

長年のご協力に感謝申し上げます。



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271